

市民政策提案（人財育成システムによる地域活性化策に関する提言書） に対する回答

国内の社会経済情勢や産業構造の変化、東日本大震災を契機にエネルギー構造の変化が進むとともに、人口減少時代を迎え、今後ますます生産年齢人口の減少が懸念されております。今後、経済が収縮していく中において持続可能な社会を構築し、地域経済を支えていく上で、人材の確保、技術・技能の担い手の確保は重要な課題の一つであると認識しております。

年々深刻化する人材不足の問題については、市内企業からも多くのご意見を伺っているところであり、市としても合同就職説明会の開催などによる人材確保支援、若者の離職防止施策や雇用のミスマッチ解消施策に取り組むと同時に、ものづくり現場における女性就労機会の増大、雇用環境の整備などに対する支援にも取り組んでおります。

特に、自動車関連をはじめとするものづくり産業においては人手不足が深刻となっており、女性就労促進などについても北海道などと連携を図りながら取り組んでいるところですが、市内に立地する企業について、学生アンケートなどの結果を見ても認知度が低いのが実状です。今後、認知度をさらに高めていくため、企業の情報や魅力発信などについて強化していかねばならないと考えております。

市では、苫小牧市総合戦略を策定し、今後の方向性として若年層転出の抑制策、生活環境の改善等による交流人口やUIJターンの増加、民間投資を呼び込むための誘致活動の充実などを掲げ、各種施策に取り組む予定としており、特に、学生や若者の市内就労促進、学生と地元企業との交流・連携機会の創出にも力を入れ、取り組んでいく予定としております。

加えて、子どもから高齢者までを対象に、苫小牧市の魅力づくり、地域資源の活用策や課題の共有を図り、市の理解を深めて郷土愛の醸成に繋げるとともに、市内企業の工場を市民等に紹介する機会等を設け、認知度、イメージ向上を図っていく予定としております。

ご提案いただいた内容につきまして、次のとおり回答いたしますが、今後の市の総合戦略における取組みについても踏まえていただきたく、御理解をお願い致します。

**【提言】 「地域一体となった人材育成システム構築に向けた協議会の設立」
に対する考え方（企業立地課）**

人材確保支援の取組みを進める一方で、地域の産業に対する関心をさらに高め、担い手としての意識の醸成を図るためには、少年期から地元のことを「知ること」は重要なことと考えております。工場見学やものづくり体験等を通じて地域の産業について知り、地域の優位性、魅力などを再認識することで、子ども達の視野、将来の選択枝の幅の広がりに繋がっていくことが期待される場所です。

子ども達への意識付けの機会については、すでに市内小中学校での授業をはじめとして実施しているところですが、学校での学習以外にも、工場見学など地域の産業に触れる機会を設けるなど、子どもから高齢者まで、市民の認知度の向上、イメージ向上を図ってまいりたいと考えております。休日の受入については企業の御協力が不可欠でありますことから、市としても可能な限り御理解を求めてまいりたいと考えております。

地域の産業の現状を子ども達に知っていただくことも重要ですが、親や家族に知っていただくことも重要な要素と捉えております。工場見学などで子ども達が知り得たことや感じたことを大人達がどのようにフォローするかは、御提案の方法など様々考えられますが、親も含めて家族や地域と一緒に工場見学を行うことなどによって、子ども達と地元産業について語らうきっかけ作りになるものと考えております。

そのような観点からも、子ども達へのフォローは、一義的に各家庭や地域の方々などのサポートが基本となるべきであり、御提案のような協議会組織につきましても、民が主体となって構成されることが望ましいと考えております。「じんざい」の育成においてはこれまでも学校、行政が直接的又は間接的に関与し、内容の充実含め取り組んでおります。行政としては、今後民間でのそのような動きが出てきた際に、バックアップさせていただくことが最良と考えております。

【提案】 虹の人材育成協議会によって考えられる具体的な活動の提案

①「地域特性に触れる学習機会の提案」に対する考え方（教育委員会）

現在、市内の各小学校では、小学校1・2年生の生活科において「地域を探検する」などの地域学習が行われているとともに、小学校3～5年生においては、社会科の授業として、地域の産業・文化に関する社会科見学や副読本（のび行く苦小牧）等を活用した苦小牧市の様子、とりわけ人々の仕事、暮らしの様子、街の移り変わりなどを学習しております。また、こうした体験的な学習で学んだことを発表したり交流したりする学習も社会科の授業の中で適切に行われております。ご提案されております大人を交えたディスカッション等を通して、子ども達が地域のことを考える機会（学習）につきましては、教育課程内での学習として行う場合は、総合的な学習の時間で行うことが妥当であると考えられますが、総合的な学習の時間のテーマは、地域や児童生徒の実態、さらには学校として子どもに身に付けさせたい力などを踏まえて学校ごとに設定することとなっております。

したがって、ご提案された事業につきましては、学校の教育活動で行うことは難しいものと考えます。また、学校の教育活動外でこうした事業を行う場合は、周知等に関して、教育委員会や学校が側面から支援することは可能です。

②「人材の裾野を広げる機会の創出」に対する考え方（青少年課・教育委員会）

「とまこまいキッズタウン」につきましては、未来を担う子ども達が就労体験及び仮想の労働報酬による消費体験をすることを通して、働くことの喜び・社会への興味を育み、健やかな成長を応援することを目的としております。平成27年度で3回目を迎えております。

まだ、新しい事業であり、また、一度に複数の職業体験、消費体験ができるイベントとして、毎年定員を超える応募をいただいておりますことから、まずは、現在の形で継続実施することが重要であると考えております。

ご提案の「苦小牧キッズタウン（仮称）」につきましては、従来のキッズタウンとは別に「ものづくり」という貴重な体験ができる事業をして、有意義なものであると考えておりますが、事業実施には、参加企業の継続的な協力が必要であり、市内の多くの企業は既に様々な社会貢献、地域貢献をされている中、更なる負担

をお願いすることになりますので、実施の可否を含めて関係課と検討してまいりたいと考えております。

なお、多くの小学校では、市内の大きな工場を社会科の授業として見学を行っております。ものづくりの体験は、土日で行われるのであれば、学校教育に支障はないものと考えますが、全国学力・学習状況調査結果等による小中学生の休日の生活実態（部活動・少年活動・塾や習いごと）を踏まえ、毎週末や月に一回の頻度は、現実的に難しいと考えます。

③ 「人材が地域にさらに触れることができる機会の創出」に対する考え方 (教育委員会)

「苫小牧版トライやる・ウィーク」について

市内全ての中学校でキャリア教育の一環として「職場見学」、「職業体験」が実施されております。これらは、進路に関する学習として行われているものであり、授業時数の確保や受入企業等の兼ね合いから、多くの中学校では1日日程で見学又は体験を行い、事前学習や事後学習も含めると概ね6～10単位時間を配当しております。

また、職業体験の多くは、接客業が中心となっておりますが、これは、事故やけが等の防止に配慮するとともに、子どもに身につけさせたいコミュニケーション能力を踏まえたものであります。中学校の教育活動で行うキャリア教育は、肯定的自己理解と自己有用感の獲得、勤労観・職業観の形成、進路計画の立案と生き方や進路に関する現実的探索、すなわち「生きる力の育成」を大きな目的としております。

ご提案された事業の実施効果等に上げられております「地域を支える一人であるという認識の育成」、「自身の将来の選択肢を広げる機会の提供」、「進路決定や雇用・採用のミスマッチの抑制」は、中学校の教育課程内で行われるキャリア教育の目的（ねらい）とは違ったものになります。